

ふるさとへぐり再発見

とりがたはそう

鳥形 壺 出土の大塚山古墳

8



今は残っていませんが、春日丘団地の南側丘陵上に古い古墳がありました。

主体部は横穴式石室で、昭和8年2月に石材採集中発見され、簡単な調査が行われました。

立地は西より延びる丘陵の最高所を利用しており、直径約16mの円墳です。

主体部は片袖式の横穴式石室で、玄室長4.2m、幅1.8m、羨道長は4mあり、石室の石がかなり抜かれているため高さは分かりません。

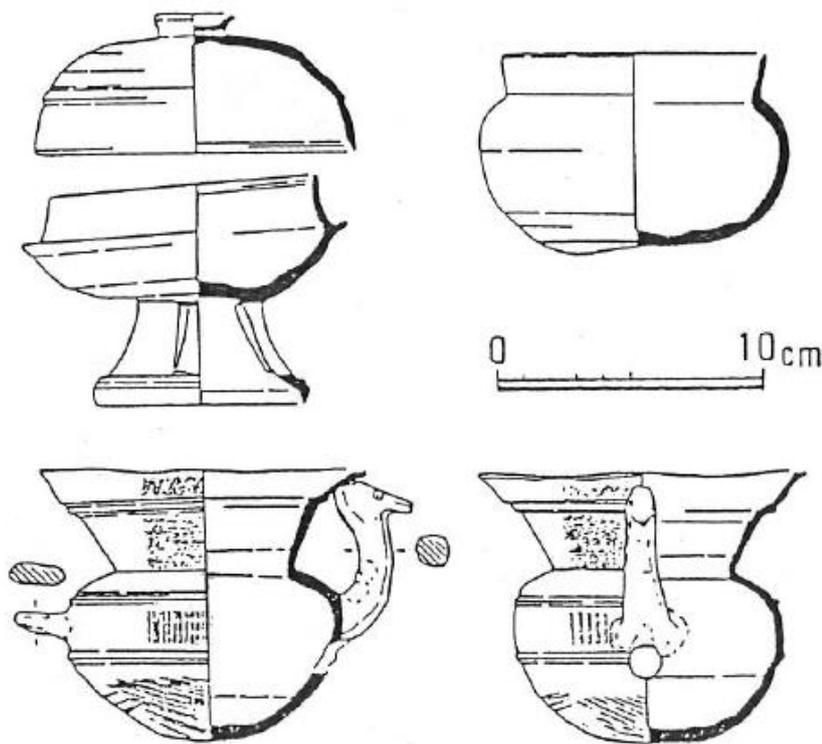
遺物は古い盗掘により散逸していましたが、馬具・玉類・鉄鏃・土器類が出土しています。また、形象埴輪（蓋形埴輪）が石室内より出土しており、注目されます。石室内より埴輪が出土する例は少ないのですが、平群谷では鳥土塚や三郷町勢野茶臼山古墳で羨道・羨門部分に配される例があり、この地域の特徴といえます。

墳丘表面にも円筒埴輪片が散布しており、埴輪列が廻らされていたようです。

石室形態も勢野茶臼山に類似しており、築造時期はこれより先行する5世紀後半頃と見られます。

その後、墳丘より須恵器が一括して発見され、図のように水鳥の首と尾を付けた壺がふくまれています。

これは精巧なもので、全国的にも珍しいものです。



大塚山古墳、墳丘出土遺物